

2023(令和5)年11月10日
江戸川区立中小岩小学校
校長 鈴木 薫

開校80周年記念式典 学校長式辞

本日、江戸川区立中小岩小学校開校八十周年記念式典を挙げるにあたり、江戸川区並びに江戸川区議会をはじめ、多数のご来賓の皆様のご列席賜り、このように開催できますことを心より厚く御礼申し上げます。

昨日は「中小岩ハッピーバースディフェスタ(中ハピ)」を開催し、「80」に因んだチャレンジ企画や未来へ向かってのバルーン・リリースを行い、児童とともに80歳の誕生日をお祝いしました。そして、本日の記念式典の翌日に、開校記念日を迎えます。

さて、本校の開校記念日は、当初6月15日としていました。これは、昭和18年6月15日に挙行した開校記念式典に由来します。この年、地域の皆様方の熱い要望を受けて、ここ中小岩に国民学校が開校しましたが、校舎は完成していませんでした。それから二月後、待望の木造二階建ての新校舎が落成し、母体校である小岩、上小岩、西小岩の各学校に分かれていた児童と職員が新校舎に集まり、名実ともに中小岩国民学校としての教育活動が始まりました。そして、この日を、最初の開校記念日に決めました。しかし、開校の喜びも束の間、戦況の悪化により、翌年山形県への学童疎開が実施され、校舎が兵舎として使われました。一方、やむを得ない事情で疎開できなかった25名の児童は、地域の方のご厚意で個人の家を間借りさせていただき、終戦まで授業を受けることができました。本校にとって忘れてはならない2年間であり、最も苦しい時代でもありました。

戦後、中小岩国民学校から中小岩小学校に変わり、みどり学級やきこえの教室、ことばの教室が次々と誕生し、待望の校歌も誕生しました。一方、急増する児童に対応するため木造校舎を増築しました。しかし、それでも間に合わず、一日の授業を前半と後半に分けて行う二部授業が続いていました。

昭和46年、これまで無かった体育館とプールを兼ね備えた鉄筋校舎が完成し、25年間続いた二部授業をようやく解消されました。11月11日、開校30周年並びに施設完成記念式典を行われ、中小岩小学校の新たな歴史を開始しました。その意義を込め、開校記念日を6月15日から11月11日に変更いたしました。二つの開校記念日のある小学校は他に例がないかもしれません。しかし、二つの開校記念日を通して、時代を超え、本校に対する思いを現在の私たちも共有することができます。

ところで、開校記念日の「開校」とは、文字通り学校を開くという意味です。一方、「開く」とは切り開くに通じます。開拓とは異なり、長い歴史の中で培ってきた経験や智慧を基に、まだ開かれていない扉を開き、さらなる可能性を引き出していくことを意味しています。予測困難な事象が地球規模で次々と起こる現代にあって、現在、そして未来を生きる一人一人の児童の可能性を引き出し、そして伸ばしていくことが求められています。特に、新型コロナウイルス・パンデミックを境に社会全体が新たな段階に入り、これまでの考え方では乗り越えられないことが増えています。だからこそ、これまでの経験と智慧を基にしながらも、新しい時代を生きるために必要な力と問題を解決していくための思考を一層高めていくことが求められています。

本校は、誰一人取り残さない社会を実現するため、これからの社会に生きる児童の資質を磨き能力を高める教育活動を一層推進してまいります。そして、地域の公立学校としての自覚のもと、その責任を果たし教育活動のさらなる充実に務めてまいります。

結びに、末永く本校の教育活動に対してご理解とご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和5年11月10日

江戸川区立中小岩小学校長 鈴木 薫